

2013年10月7日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 佐藤 真久

フィリピン国 クラーク空港高速鉄道（通勤線区間）事業
（協力準備調査（有償））
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2013年9月27日（金）14:05～18:23
- ・場所：JICA本部（会議室：1階 111会議室）
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、佐藤委員、清水谷委員、日比委員、柳委員
- ・議題：フィリピン国クラーク空港高速鉄道（通勤線区間）事業に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) フィリピン国クラーク空港高速鉄道（通勤線区間）事業協力準備調査 助言委員会 事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月）

全体会合（第40回委員会）

- ・日時：2013年10月7日（月）14:30～16:18
- ・場所：JICA本部（会議室：2階 229会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全般的事項

1. 本区間（マロロス～FTI）及び将来の鉄道延長予定区間（マロロス～CIA）に対する環境社会配慮面のインパクトを総合的に検討した上で、本区間の着工を優先して行う必要性を明確に説明すること
2. 「2013年度円借款審査対象範囲の現況」との表題の下で、写真により、候補地の状況が示されているが、検討対象となる他の地域の写真もDFRに掲載すること。
3. 鉄道敷設に伴う盛土、切土作業が想定される場合、その工法と盛土・切土作業に伴う土砂崩壊や地滑り等に対する対策を記載すること。
4. 鉄道敷設に伴う土捨て、土砂採取の作業が想定される場合、土捨て、土砂採取場における土壌流出等については、施工業者の責任において確保するよう、実施機関に提言すること。
5. 代替案の検討、社会・環境評価の際には、調査の前提となる気候・気象条件について、今後の気候変動による台風等の影響甚大化の可能性を考慮すること。また、必要に応じて、事業計画における「適応策」を検討すること。

代替案の検討

6. 自然・社会環境に関する記述を反映させることにより、ルート選定時の各代替案の全体評価を明確におこなうこと。また、フィリピン国がオプションCを推奨した理由について記載すること。
7. 推奨のオプションCを採用した場合における代替案（設置工法及び構造形式）及びそれに伴う環境社会影響の検討を行うこと。

スコーピング案

8. 「生態系・動植物」、「騒音・振動」について、供用後の影響評価を再検討すること。特に、生態系・動植物に関しては、その分野に詳しいNPO等へのヒアリングを含め情報収集に努めること。
9. 湿地の改変や植生の除去による地球温暖化への影響を評価すること。また、工事前・中の地球温暖化への影響は、B・（ある程度の負の影響）とあるので、文中の表現を整合させること。
10. 地下水脈の遮断による水資源利用への影響を再検討すること。
11. 大量の住民移転が予想されるが、供用後には問題が生じないとは限らないので、評価を再検討すること。
12. 「社会関係資本や地域の意思決定機関等の社会組織」における評価を再検討すること。
13. 労働環境（衛生、安全）についての検討を加えること。

汚染対策

14. 土壌の現地調査の結果、土壌汚染が判明したときは、その対策措置を講じること。また、住居地域等を高架で通過する際、必要に応じて目隠し措置や騒音・振動に関する十分な環境影響緩和措置を講じること。

自然環境

15. 国立公園以外の保護区を明示すること。また、事業対象地からの距離も明示すること。

社会環境

16. 非自発的住民移転に伴って影響を受ける非正規居住者の対応については、「フィ」国による補償対象外のものについても、JICA ガイドラインに基づく補償措置を講ずること。
17. Due Diligence Report (DDR)案を踏まえた Corrective Action Plan (CAP)案、さらに Resettlement Action Plan (RAP)案において、実効性のある苦情処理メカニズムを検討し、その仕組みを構築するよう提案すること。

ステークホルダー協議

18. ジェンダー及びマイノリティへの明確な配慮策をもったうえで、ステークホルダー協議をおこない、結果を DFR に記述すること。

その他

19. 鉄道敷設に伴う、送変電、配電に関する検討を加えること。

以 上